

生徒作品



指人形「家庭科作品」

アピールポイント

- ・目や口の形と着物の桜を刺繍で表したところ

HTさんから講評

- ・この作品は、日本の伝統衣装である着物を着ていて、髪も日本髪にしています。「手を入れてお辞儀をすると本当に舞妓さんのようで可愛いです。」と制作者のコメントの通り“愛らしい舞妓さん”です。

HT先生の講評2

・とても素敵な作品になりました。令和4年度大田区六郷技術家庭科作品展に出品されました。また、都展にも出品されました。



作品



題名
まいこさん

紙紐作品 「美術作品」

アピールポイント

- ・魚を立体的に作り壁を泳ぐように表現した。

T先生からの講評1

ぱっと目を惹く具象的な魚は、ヒレは紙ひもを薄く広げて柔らかさを表現し、胴体は立体感を出すために紙ひもを何重にも重ねてしっかりと身が詰まっているようであるし、きれいな曲線でしなやかさも伝わる。

T先生の講評2

周りの抽象的な形で未知の宇宙を表現し、そこで泳いでいる浮遊魚は、設定にのっとして手入れをしていない尾びれがついている。素材の扱い方と表現、物語が一致して美しい作品になっている。

作品



タイトル

「浮遊魚」

瓢箪ランプ「技術作品」

アピールポイント

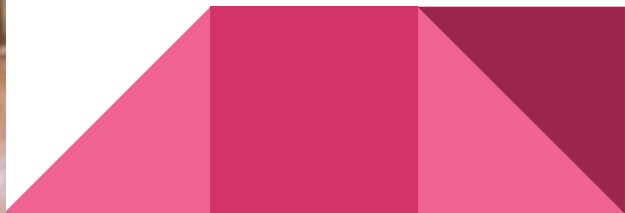
- ・自分が作っていて楽しい作品作りをした。

KHさんからの講評

達磨の模様のカットイングが綺麗で光の出方も美しい。大田区連合作品展を訪れた地域の方々にも「よくこんなにきれいに彫り込めましたね」と、ご好評をいただきました。

点灯後、僅か10秒ほどで消灯してしまうのが惜しいと思っていたのですが、「人生は一瞬で終わる」という覚者の教えを表現しているようでもあり、奥深い作品です。

作品



税の作文 「社会作品」

書き上げた意味

・税のことをみんなに詳しく知ってもらうために書いた。

TDさんからの講評

税金というテーマではあるが、歴史から現代を考え、未来について中学生が身の丈にあった自分の言葉でしっかりと述べていることが素晴らしい。

このように感じてくれる若者がいるのであれば、日本の未来は安泰だと感じた。

「血税一揆」明治六年から翌年にかけて起こった徴兵反対一揆のことで、新たな義務が課されることや、政治の政策への反対から農民・士族が起したものである。約五十年前に起こった一揆も、考え方によっては今も尚継続しているのではないかと思う。税金の無駄使用による不平不満は何故生まれるのだろうか。

私は税金についてあまり知らない。街頭演説やニュースでよく耳にするのは、政治家の税金の無駄使用や目的外使用による言い争いが目立ち、肝心な使用道が存在が薄くなっていくことだ。正しい知識や情報が少ない為に、税金のイメージは人によって好印象ではない。自分なりに調べ学習に思ったことは、情報発信の工夫が今も尚変わっていないことが原因の一つではないかと思う。

「昔と今は違う」言葉では分かっているも受け入れられず、時が経っていく。しかし、そのままでは何も変わらない。そんな中、きっかけを与えてくれたのが、平成二十七年六月に公職選挙等の一部改正する法律が成立公布され、選挙権年齢の引き下げが十八才からとなった。私は二年の差で得られる知識は計り知れないと思った。選挙に関心を持ち、興味を持たないと無知であるが故、不平不満がでてくる。それでもいいと思う。間違った考えや使い方から学び、有効的な活用を見出

せると思っからだ。選挙権を得られたことで他者への興味が深まり、一つ一つの行動に責任を持つようになった。今の私の情報源はSNSだ。良くも悪くも沢山の情報が簡単に得られる。しかしながら意識の変化で、間違った情報に惑わされない見極める力が、少しずつではあるがついたように思う。若い世代ができることは、正しい情報を誰もが分かりやすい言葉を使い、発信することが必要だと思う。

私達が安心・安全で環境の整った場所での生活ができること、予期せぬ事態に対応し、救ってくれたことも税金があったからこそだと思う。いざという時に助けられ皆を守ってくれる。精神面・経済面の安心材料となるのが税金だ。当たり前のことが当たり前であることに感謝したい。今のような考えが持てたのも教育を受ける場があり、見守っていてくれる地域で育ててもらったからこそだ。

私の座右の銘は「率先垂範」だ。将来子供に携わる仕事に就き、政治や税金の使い道が昨日見たドラマの話をするように、日報の一部として受け入れる新しい風景をつくりたい。そのためには、自ら発信する環境を多く与えたいと強く思う。

豊かな暮らしを守る税金。その税金の仕組みをより深く知るために、幅広い世代と意見を交換し、身近なものにすることで、未来の子供達やそれを支える大人が豊かでハツラツとした生活ができるのではないかと考え、税金が未来を明るく照らすものだと思えていきたい。